

業種横断的な取組

現状と課題

リスクアセスメント※の導入はすすんでいるものの、中小規模事業場への普及が進んでいません。また安全分野が先行して労働衛生分野の取組が進んでいない状況にあります。

※リスクアセスメントとは、職場にある様々な危険の芽（リスク）を見つけ出し、それにより起こることが予測される労働災害の重大さからリスクの大きさを見積もり、大きいものから順に対策を講じていく手法です。

リスクアセスメントの普及促進

中小規模事業場へのリスクアセスメントと労働安全衛生マネジメントシステムの導入促進

- ・ 中小企業向けマネジメントシステム導入マニュアルの作成

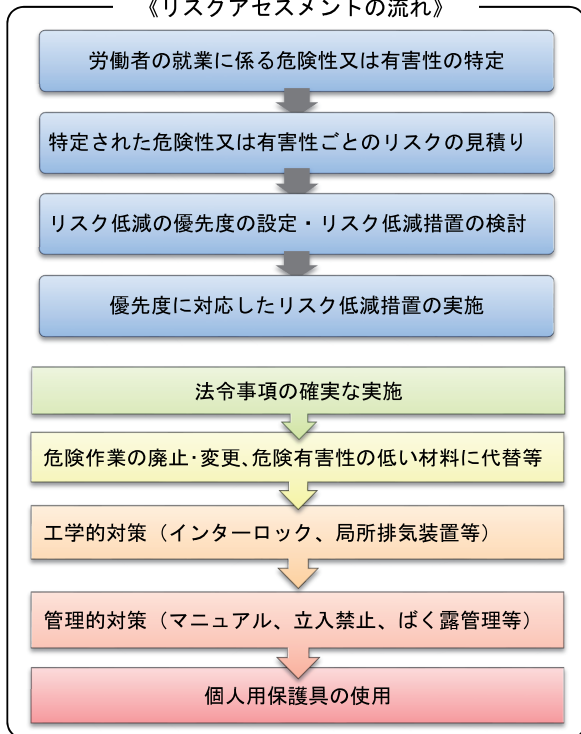
建設業の元方事業者と関係請負人によるそれぞれの役割に応じたリスクアセスメントの実施促進

- ・ 建設業労働災害防止協会との連携

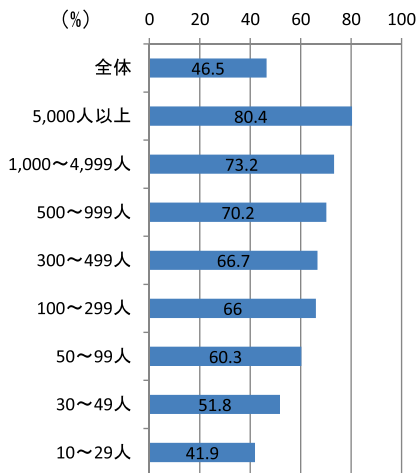
労働衛生分野のリスクアセスメントの促進

- ・ 専門的知識がなくても化学物質のリスクアセスが可能な「コントロール・バンディング」の中小規模事業場への普及
- ・ 腰痛、熱中症等のリスクアセスメントマニュアル等の整備

《リスクアセスメントの流れ》



リスクアセスメントの普及状況



(出典：平成23年労働災害防止対策等重点調査)

業種横断的な取組

現状と課題

1. 高齢労働者のさらなる増加に備え、加齢による身体機能の低下や基礎疾患に関連する労働災害の発生防止を強化する必要があります。
2. 労働者の3人に1人を占める非正規雇用労働者に関する安全衛生活動の実態を踏まえた対策が必要です。

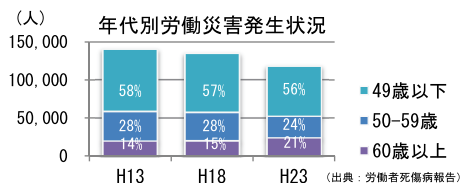
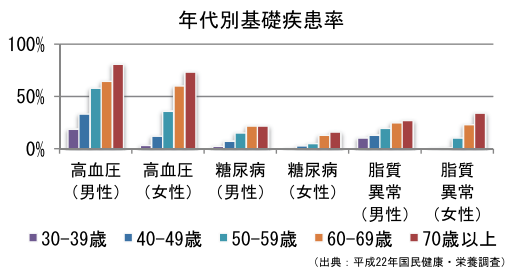
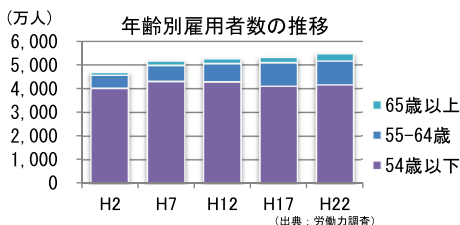
高齢労働者対策

身体機能の低下に伴う労働災害防止の取組

- ・ 段差の解消、手すりの設置、必要な照明の確保など職場の残留リスクの低減
- ・ 身体機能の低下を防ぐための運動の促進
- ・ 高齢労働者に対し、身体機能の低下や基礎疾患に伴う労働災害発生リスクの教育

基礎疾患等に関連する労働災害防止

- ・ 基礎疾患等の健康障害リスクを持つ労働者に、労働災害につながるような状態で作業に従事することのないよう健康管理、注意喚起
- ・ 基礎疾患が誘発しうる労働災害について、産業医や地域産業保健センター等を通じた周知徹底



非正規雇用労働者対策

非正規雇用労働者に関する安全衛生活動や労働災害の実態把握と対策の検討

- ・ 非正規雇用労働者に対する雇い入れ時教育や健康診断などの安全衛生活動の実態や労働災害発生状況の把握及び必要な対策の検討

就業形態の多様化を踏まえた責任の明確化

- ・ 多様な就業形態が混在する労働現場における労働災害防止の責任の明確化